

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2021年11月11日
【四半期会計期間】	第51期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）
【会社名】	キムラユニティー株式会社
【英訳名】	KIMURA UNITY CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 成瀬 茂広
【本店の所在の場所】	名古屋市中区錦三丁目8番32号
【電話番号】	052-962-7051（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役副社長管理本部長 小山 幸弘
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区錦三丁目8番32号
【電話番号】	052-962-7051（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役副社長管理本部長 小山 幸弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第2四半期 連結累計期間	第51期 第2四半期 連結累計期間	第50期
会計期間	自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2020年4月1日 至2021年3月31日
売上高 (百万円)	23,837	26,948	51,782
経常利益 (百万円)	596	1,562	2,812
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	286	1,011	1,603
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	252	1,817	2,646
純資産額 (百万円)	28,750	32,422	30,736
総資産額 (百万円)	51,263	54,356	54,061
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	23.76	83.79	132.86
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.50	56.80	54.42
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	969	921	3,245
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	271	217	409
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	386	442	928
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	6,282	8,478	7,956

回次	第50期 第2四半期 連結会計期間	第51期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2020年7月1日 至2020年9月30日	自2021年7月1日 至2021年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	32.13	41.44

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、国内では新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の制限が続く中、依然として厳しい状況が続きました。ワクチン接種が進み新規感染者数が減少に転じる中、感染拡大の抑制に向けた政策の効果による個人消費の回復が期待されるものの、感染力の強い変異株の出現による感染拡大リスクにより、先行きは依然として不透明です。

海外においても、欧米や中国など経済の回復傾向が見られるものの、中国における電力制限措置に伴う生産活動への影響懸念、新型コロナウイルスからの回復を受けての材料価格の高騰、半導体不足の影響等を含め先行きは不透明な状況が続いております。

また、当社グループと関係の深い自動車業界でも、国内外で加速しているCASE(コネクテッド・自動運転・シェアリング・電動化)への取り組み等の「100年に1度の大変革期」を迎える中、世界的な車載用半導体不足や東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大に伴う部品調達停滞の影響による自動車の減産という厳しい状況に直面しており、今後の自動車部品の調達環境や新型コロナウイルス感染の動向については、先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような環境の中で当社グループにおきましては、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、物流サービス事業における主要顧客からの受注量の増加等により、売上高は、26,948百万円(前年同期比13.1%増収)となりました。営業利益は、主力事業である物流サービス事業の増収等により、1,232百万円(前年同期比116.6%増益)、経常利益は1,562百万円(前年同期比162.0%増益)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、1,011百万円(前年同期比252.5%増益)となりました。

なお、主なセグメント別の売上高(セグメント間の内部売上を含む)、営業利益の状況は次の通りであります。

#### 物流サービス事業

売上高は、海外子会社KIMURA, INC.でのパレット事業の受注減少に伴う減収及び国内外を含めた新型コロナウイルス感染症の影響や車載用半導体不足等による稼働停止の影響はあったものの、包装事業において主要顧客の受注量の増加等により、18,994百万円(前年同期比17.9%増収)となりました。営業利益は格納器具製品事業において材料費の高騰や海外子会社KIMURA, INC.の収益悪化等はありませんでしたが、包装事業において海外子会社広州広汽木村進和倉庫有限公司での受注量の増加等もあり、1,695百万円(前年同期比96.1%増益)となりました。

#### 自動車サービス事業

売上高は、車両整備事業におけるメンテナンス契約台数の増加等はありませんでしたが、車両販売事業における販売台数の減少等により、6,965百万円(前年同期比1.2%減収)となりました。営業利益は、293百万円(前年同期比15.3%増益)となりました。

#### 情報サービス事業

売上高は、主要顧客からの受注が回復したこと等により、747百万円(前年同期比27.1%増収)となりました。営業利益は、原価率悪化の影響等により、31百万円(前年同期比30.7%減益)となりました。

#### 人材サービス事業

売上高は、市場の人材獲得競争の中、エリア貢献の拡販(中部、関西、関東への展開)実現に向けて積極的な拡販活動や新規顧客の獲得に注力したこと等により、461百万円(前年同期比73.3%増収)となりました。営業損益は関西拠点での派遣人件費の増加等により、0百万円の損失(前年同期は営業利益5百万円)となりました。

#### その他サービス事業

売上高は、太陽光発電による売電サービスにより、25百万円(前年同期比7.2%減収)となりました。営業利益は9百万円(前年同期比17.2%減益)となりました。

#### (2)資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は54,356百万円となり、前連結会計年度末に比較して295百万円の増加となりました。その主な要因は、固定資産が投資有価証券の増加等により345百万円増加したこと等によるものであります。

負債合計は21,933百万円となり、前連結会計年度末に比較して1,391百万円の減少となりました。その主な要因は、未払金の減少等により流動負債が1,659百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比較して1,686百万円増加の32,422百万円となりました。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末比2.4ポイント上昇の56.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比較して521百万円増加し8,478百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間におきましては921百万円の収入で、前年同四半期に比べ47百万円の収入減となりました。主な要因は、長期未払金の増減額が412百万円減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間におきましては217百万円の支出で、前年同四半期に比べ53百万円の支出減となりました。主な要因は、投資有価証券の売却による収入が105百万円増加したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間におきましては442百万円の支出で、前年同四半期に比べ55百万円の支出増となりました。主な要因は、リース債務の返済による支出が67百万円増加したこと等によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当社グループでは、主に物流サービス事業の分野で研究開発活動を行っており、物流機器・輸送機器の企画・設計・開発・試作を中心に活動するとともに、海外への事業展開を図るための調査・研究を実施しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の研究開発費は137百万円であり、主に既存製品の改良と物流ノウハウとITを融合した新技術の開発によるものであります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,070,000	12,070,000	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	12,070,000	12,070,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	-	12,070,000	-	3,580	-	3,390

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
木村株式会社	名古屋市中区錦3丁目8番2号	3,025	25.07
豊田通商株式会社	名古屋市中村区名駅4丁目9番8号	1,000	8.29
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	423	3.51
絲丹株式会社	名古屋守山区上志段味中屋敷1475番地1	388	3.22
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	384	3.18
木村 幸夫	名古屋市昭和区	357	2.96
木村 昭二	兵庫県西宮市	340	2.82
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	330	2.74
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	330	2.73
キムラユニティ社員持株会	名古屋市中区錦3丁目8番32号	284	2.35
計	-	6,863	56.87

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,065,000	120,650	-
単元未満株式数	普通株式 3,300	-	-
発行済株式総数	12,070,000	-	-
総株主の議決権	-	120,650	-

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
キムラユニティ株式会社	名古屋市中区錦3丁 目8番32号	1,700	-	1,700	0.01
計	-	1,700	-	1,700	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,426	8,948
受取手形及び売掛金	8,461	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	8,156
リース投資資産	8,521	7,952
商品及び製品	420	392
仕掛品	115	24
原材料及び貯蔵品	184	374
その他	886	1,119
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	27,015	26,965
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,678	8,678
機械装置及び運搬具(純額)	469	526
賃貸資産(純額)	475	492
土地	6,795	6,807
リース資産(純額)	797	735
建設仮勘定	117	5
その他(純額)	1,040	1,175
有形固定資産合計	18,374	18,422
無形固定資産		
のれん	45	37
その他	945	1,080
無形固定資産合計	991	1,117
投資その他の資産		
投資有価証券	4,840	5,014
繰延税金資産	253	198
その他	2,613	2,669
貸倒引当金	29	31
投資その他の資産合計	7,679	7,850
固定資産合計	27,045	27,391
資産合計	54,061	54,356

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,071	927
短期借入金	760	812
1年内返済予定の長期借入金	1,000	-
未払金	3,214	2,809
未払費用	2,830	2,919
リース債務	423	490
未払法人税等	539	644
賞与引当金	1,159	942
役員賞与引当金	30	15
その他	1,058	868
流動負債合計	12,088	10,429
固定負債		
長期借入金	3,000	4,000
長期未払金	5,571	5,156
リース債務	1,185	1,118
退職給付に係る負債	214	23
再評価に係る繰延税金負債	874	874
その他	390	330
固定負債合計	11,236	11,504
負債合計	23,325	21,933
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,580	3,580
資本剰余金	3,444	3,444
利益剰余金	21,325	22,206
自己株式	1	1
株主資本合計	28,348	29,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,401	1,503
土地再評価差額金	534	534
為替換算調整勘定	264	154
退職給付に係る調整累計額	600	547
その他の包括利益累計額合計	1,072	1,646
非支配株主持分	1,314	1,546
純資産合計	30,736	32,422
負債純資産合計	54,061	54,356

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	23,837	26,948
売上原価	19,903	22,156
売上総利益	3,934	4,792
販売費及び一般管理費	3,365	3,560
営業利益	568	1,232
営業外収益		
受取利息	19	29
受取配当金	35	39
持分法による投資利益	46	217
雇用調整助成金	38	-
為替差益	-	43
その他	21	45
営業外収益合計	162	376
営業外費用		
支払利息	49	36
為替差損	68	-
その他	17	9
営業外費用合計	135	45
経常利益	596	1,562
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	-	77
特別利益合計	1	78
特別損失		
固定資産除売却損	8	14
その他	1	0
特別損失合計	9	15
税金等調整前四半期純利益	587	1,625
法人税、住民税及び事業税	230	543
法人税等調整額	10	53
法人税等合計	219	489
四半期純利益	368	1,135
非支配株主に帰属する四半期純利益	81	124
親会社株主に帰属する四半期純利益	286	1,011

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	368	1,135
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	64	102
為替換算調整勘定	138	511
退職給付に係る調整額	88	52
持分法適用会社に対する持分相当額	130	14
その他の包括利益合計	116	681
四半期包括利益	252	1,817
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	207	1,585
非支配株主に係る四半期包括利益	44	231

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	587	1,625
減価償却費	704	813
のれん償却額	7	7
持分法による投資損益(は益)	46	217
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	229	235
役員賞与引当金の増減額(は減少)	40	15
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	52	115
受取利息及び受取配当金	55	69
支払利息	99	81
為替差損益(は益)	56	43
有形固定資産売却損益(は益)	122	104
有形固定資産除却損	8	14
投資その他の資産評価損	1	-
有価証券及び投資有価証券売却損益(は益)	-	77
売上債権の増減額(は増加)	1,322	-
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	-	652
棚卸資産の増減額(は増加)	248	153
リース投資資産の増減額(は増加)	82	367
その他の流動資産の増減額(は増加)	414	315
仕入債務の増減額(は減少)	368	149
その他の流動負債の増減額(は減少)	432	277
長期未払金の増減額(は減少)	3	415
その他の固定負債の増減額(は減少)	135	223
小計	1,325	1,149
利息及び配当金の受取額	102	191
利息の支払額	99	81
法人税等の支払額	358	338
営業活動によるキャッシュ・フロー	969	921
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	320	368
有形固定資産の売却による収入	149	243
投資有価証券の取得による支出	47	0
投資有価証券の売却による収入	-	105
投資その他の資産の増減額(は増加)	52	197
投資活動によるキャッシュ・フロー	271	217
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,000	-
短期借入金の返済による支出	1,000	-
長期借入れによる収入	2,000	1,000
長期借入金の返済による支出	2,000	1,000
リース債務の返済による支出	121	188
配当金の支払額	265	253
財務活動によるキャッシュ・フロー	386	442
現金及び現金同等物に係る換算差額	63	259
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	247	521
現金及び現金同等物の期首残高	6,035	7,956
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,282	8,478

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準等」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる額で収益を認識することといたしました。

これにより、以下の変更が発生しております。

・物流サービス事業の包装事業において、従来は売上原価として計上していた一部の費用について、顧客に支払われる対価として売上高から減額しております。

・自動車サービス事業の自動車販売事業において、従来は新車登録時点で収益を認識しておりましたが、車両引渡時点で収益を認識する方法に変更しております。

・自動車サービス事業の保険代理店事業において、従来は顧客からの代金支払時点で収益を認識しておりましたが、一時点での履行義務の充足として、保険契約始期時点で収益を認識する方法に変更しております。

・情報サービス事業において、従来は顧客の検収時点で収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、履行義務の結果を合理的に測定できる場合、見積総原価に対する実際原価の割合(インプット法)で算出しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は21百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ33百万円増加しております。また、利益剰余金の期首残高は、122百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。また、前第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「売上債権の増減額(は増加)」は、当第2四半期連結累計期間より「売上債権及び契約資産の増減額(は増加)」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替を行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による影響はあるものの、回復基調で推移しており、会計上の見積り(固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性)については、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載したとおり重要な変更は行っておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
荷造運賃	462百万円	453百万円
給与手当	1,235	1,290
役員報酬	108	128
賞与引当金繰入額	200	215
退職給付費用	69	54
減価償却費	144	164

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	6,752百万円	8,948百万円
預入れ期間が3か月を超える定期預金	470	470
現金及び現金同等物	6,282	8,478

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月18日 定時株主総会	普通株式	265	22	2020年3月31日	2020年6月19日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
 末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月29日 取締役会	普通株式	229	19	2020年9月30日	2020年12月7日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月23日 定時株主総会	普通株式	253	21	2021年3月31日	2021年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
 末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月28日 取締役会	普通株式	241	20	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)  
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	物流サー ビス事業	自動車サー ビス事業	情報サー ビス事業	人材サー ビス事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	16,106	7,027	587	86	23,809	27	23,837	-	23,837
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	20	-	179	200	-	200	200	-
計	16,106	7,048	587	266	24,009	27	24,037	200	23,837
セグメント利益	864	254	45	5	1,169	11	1,180	611	568

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業であります。
2. セグメント利益の調整額 611百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 613百万円が含まれております。その全社費用の主なものは、当社の人事、総務及び経理等の管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)  
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	物流サー ビス事業	自動車サー ビス事業	情報サー ビス事業	人材サー ビス事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	18,983	6,945	747	246	26,922	25	26,948	-	26,948
セグメント間の内部売上高又は振替高	10	20	-	214	245	-	245	245	-
計	18,994	6,965	747	461	27,168	25	27,194	245	26,948
セグメント利益又は損失( )	1,695	293	31	0	2,018	9	2,028	796	1,232

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業であります。
2. セグメント利益の調整額 796百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 797百万円が含まれております。その全社費用の主なものは、当社の人事、総務及び経理等の管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計
	物流サービス事業	自動車サービス事業	情報サービス事業	人材サービス事業	計		
包装	16,394	-	-	-	16,394	-	16,394
格納器具製品	2,589	-	-	-	2,589	-	2,589
車両整備	-	2,090	-	-	2,090	-	2,090
車両メンテナンス	-	734	-	-	734	-	734
車両販売	-	883	-	-	883	-	883
カー用品販売	-	69	-	-	69	-	69
保険代理店	-	330	-	-	330	-	330
交通防災サービス	-	8	-	-	8	-	8
情報サービス	-	-	747	-	747	-	747
人材派遣	-	-	-	246	246	-	246
その他	-	-	-	-	-	25	25
顧客との契約から生じる収益	18,983	4,116	747	246	24,094	25	24,120
車両リース	-	2,815	-	-	2,815	-	2,815
駐車場賃貸	-	12	-	-	12	-	12
その他の収益(注)2	-	2,828	-	-	2,828	-	2,828
外部顧客への売上高	18,983	6,945	747	246	26,922	25	26,948

(注)1.「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業であります。

2.「その他の収益」は、リース取引に関する収益基準に基づく収益等で「顧客との契約から生じる収益」と区分して記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	23円76銭	83円79銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	286	1,011
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	286	1,011
普通株式の期中平均株式数(株)	12,068,251	12,068,251

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による自己株式の買付け及び自己株式の消却について

当社は、2021年10月28日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式を取得すること及びその具体的な取得方法、並びに会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却を行うことを決議いたしました。

1. 自己株式の取得及び消却を行う目的

株主還元の実現と資本効率の向上のため、自己株式の取得及び消却を実施いたします。

2. 自己株式の取得の方法

2021年10月28日の終値(最終特別気配を含む)1,376円で2021年10月29日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)において買付けの委託を行いました。当該買付注文は当該取引時間限りの注文といたしました。

3. 自己株式の取得及び消却に関する取締役会決議の内容

(1) 自己株式の取得の内容

取得対象株式の種類	普通株式
取得する株式の総数	320,000株 (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合2.65%)
株式の取得価額の総額	440,320,000円
取得日	2021年10月29日

(2) 自己株式の消却の内容

消却する株式種類	普通株式
消却する株式の総数	320,000株
消却予定日	2021年11月30日

2【その他】

2021年10月28日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 241,365,020円

(ロ) 1株当たりの金額 20円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2021年12月6日

(注) 2021年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月11日

キムラユニティー株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 寿佳 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 達治 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキムラユニティー株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、キムラユニティー株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。